

つながりを切らない  
孤立させない  
新しいつながり方を提案する



### 第3号

発行日 2020年4月29日(水)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F (CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: 準備中

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、t-net@clc-japan.comまでご連絡をお願いいたします。

「つながりを切らない」情報・交流ネットワークは、東日本大震災以降、大規模災害が起こるたびに、地域づくりに関わる方への情報提供・研修に関わってきたメンバーを中心に立ち上げました。感染防止のための対策を講じつつ、全国各地で創意工夫のなかから生まれた『新しいつながり方』を収集・提供し、WEBを活用した交流等に取り組みます。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言があるなかで、それに負けない住民の手によるさまざまな活動が動きだしています。新型コロナウイルスがいずれ終息したそのときにも、こうしたつながりが、各地の人々の生きる支えになると考えています。この「つながる通信」では、そうした活動を広く発信し、各地でお役立ていただく一助となることを願って発行します。

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク  
世話人 共同代表 池田昌弘

## 通いの場は休止でも、 タケノコご飯のおすそ分け

NPO法人すずの会  
(神奈川県川崎市)

川崎市宮前区の野川中学校区で活動するNPO法人すずの会。会が運営するミニデイサービスや川崎市介護予防・日常生活支援総合事業で受託する通いの場も、市からの要請により中止をせざるを得ない状況になりました。

「特に一人暮らしの人などの入浴や食事が心配」という代表の鈴木恵子さん。外出を制限したことで体力や精神面の不安の声も聞こえてきました。そんな鈴木さんのもとに、近所の方からタケノコの差し入れがありました。そこで、鈴木さんはタケノコご飯をつくり、利用者に配ることを思いつきました。

4月10日、つくったタケノコご飯を、散歩がてら、すずの会の拠点「すずの家」に取りに来てもらうことにしました。同じ時間に一斉に取りに来てもらうと、人が密集してしまう可能性がありそうです。そこで、取りに来てもらう時間を細分化して伝え、人が集まりすぎないように配慮しました。

顔を見てのちよつとのおしゃべりとタケノコご飯のおみやげに、「久しぶりに笑った」という声が聞かれたと言います。ささやかなつながりが重要と、すずの会では4月25日にも赤飯とエビ・春野菜の天ぷらをつくりました。4月25日を選んだのも、「1週間のうちで一番天気が良さそうな日だったから」という配慮からとのこと。



赤飯とエビ・春野菜の天ぷら。それぞれの家庭の食卓に彩りを添える



の日は、29食をお持ちかえりいただく盛況ぶりでした。いつものにぎやかな集いの風景とは雰囲気も違っても、ほっとできるひとときであることは変わらない、あたたかな風景でした。

### つながるポイント

- ・「取りに来てもらう」とことで運動機能の維持も
- ・同じ時間に人が集まりすぎないような工夫をすることで安心して顔を合わせられる



## ご近所の見守り、移動販売も一役

おぼまがわら  
小浜川原お茶飲み会（宮城県蔵王町）

小浜川原お茶飲み会は、宮城県蔵王町の小浜川原地区で、毎週金曜の午後1時に開かれる自宅型サロン。会員は60〜90歳代の女性7人。全員徒歩3分以内程度の範囲に住んでいます。

会場となるのは一人暮らしの女性会員（90歳）宅で、午後1時過ぎに集まり、3時間ほど手工芸品の制作やお茶飲みをともにしています。

2018年から町社協の生活支援コーディネーターが関わるようになる。地元で作品展示会を開いたり、商店街の音楽イベントでチケットとして使う革製プレスレットの制作を請け負うなど、活動の幅を広げていきました。また、コーディネーターの紹介で、お茶飲みの開催日に合わせて食料品の移動販売車を呼ぶようにもなりました。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、会の活動は休止中ですが、会員はそれぞれマスクづくりをして友人知人や親類などに配っています。

会員同士は、もともとご近所づきあいが活発。日常的に庭仕事や畑仕事、買いもの（移動販売）、おすそ分けなどでしばしば顔を合わせています。特に、自宅をお茶飲み場として提供していた90歳の一人暮らし女性には、複数の会員が意識的に頻繁な声かけを行っています。

この女性宅にはほぼ毎週末、関東在住の息子が帰省し、買いものなどを手伝っていました。感染予防のために帰省を控えることになりました。

会員らは、女性の息子に「私たちが毎日見ているから大丈夫。買いものも手伝う。何かあればすぐ連絡するから安心して」と伝え、見守りや生活支援を実践しています。



高齢者の暮らしを支える移動販売「あいざわ魚店」。現在も通常営業を継続中

### つながるポイント

- ・ご近所づきあいで日常的に顔を合わせる仲間が気にかける
- ・ご近所の見守り・声かけが、遠方に住む息子の安心に

## <各地の実践もお寄せください！>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただきます。情報は、E-mail: t-net@clc-japan.com、fax: 022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ！

### 編集後記

感染防止のための自粛は必要ですが、その先の希望ある未来を信じて地域づくりに奔走する姿は、取材をしている私たちにも大きな勇気を与えてくれます。

